

めぐみイエス・キリスト教会

2019年5月19日(日)第三主日礼拝
週報「通算第456号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年5月19日 第三主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時

司会・奏楽 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌363 「わが身の望みは」 p. 582
- 【交読文】 No.35 詩篇第110篇 p. 907
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌148 「夕べ雲焼くる」 p. 206
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.1 「ビジョン」
- 【聖書朗読】 マタイの福音書28章16節～20節(新約p. 57)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《指示された山とは?》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝禱後奏】

◎本日の聖書箇所【マタイの福音書 28章16節～20節】(新約p.57下段)

28:16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。

28:17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「私には天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としましょう。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、

28:20 また、私あなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。私は、世の終わりまで、いつも、あなたがたと共にいます。」

●ポイント1. 主イエス様の弟子たちへの最初の命令とは？

※マタイの福音書28章8節～10節「主の弟子への伝言」(新約p.57上段)

28:8 そこで、彼女たちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走って行った。

28:9 すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう。」と言われた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。

28:10 すると、イエスは言われた。「恐れてはいけません。行って、私の兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこで私に会えるのです。」

●ポイント2. 指示された山とは、どこの山なのか？

※ルカの福音書6章12節～17節 「十二使徒の任命」(新約p.109上段)

●ポイント3. 「ある者は疑った」と書かれた者は誰なのか？

※ヨハネの福音書20章24節～25節「一回目の現われ」(新約p.205上段)

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一緒にいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

※ヨハネの福音書6章35節 「私は命のパンである」(新約p.170上段)

6:35 イエスは言われた。「私がいのちのパンです。私に来る者は決して飢えることがなく、私を信じる者はどんなときにも、決して渇くことはありません。」

◎先週のメッセージの概要【三度目の現われ】

《引き続き、復活後の出来事について学びます。主イエス様の弟子たちへの三度目の現われと言うことは、一度目と二度目があったということになります。

一度目は、イエス様が復活された週の始めの日、すなわち日曜日の夕方に、鍵がかかっていた部屋に、突如として来られた時のことを指しています。

その時なぜか、十一弟子の一人、デドモと呼ばれたトマスはいませんでした。

二度目は、さらに一週間後のことです。同じような場面に、イエス様が現われ、この時にはトマスはいました。そしてトマスに、ご自身を示されたのです。

イエス様の弟子たちへの最初の命令は、「ガリラヤに行きなさい。」でした。

ガリラヤ宣教の本拠地となったのはカペナウムです。そのカペナウムには、シモン・ペテロと弟アンデレの家があります。エルサレムからカペナウムまでは、距離にして120キロ以上あり、一日40キロ歩くとして、3日はかかります。

二度目の現われの時に、イエス様は再度ガリラヤ行きを命じられたのです。おそらく翌日の月曜日の朝早く彼らは出発したはずですが、そして3日間かけてカペナウムのシモン・ペテロの家に着きました。これも推測ですが、そこで弟子たちは、イエス様の来られることを待ち望んでいたと思われま

す。しかし数日が過ぎても、イエス様の現われはなく、ついにしびれを切らせたシモン・ペテロが、自分の持ち舟に乗って「私は漁に行く」と言ったのです。しかしその夜は何も取れず朝となりました。そこへイエス様が現われます。

「子どもたちよ。食べる物がありませんね。舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、取れます。」

そこで、彼らは網をおろすと、何と153匹の大きな魚がかかったのです。実は以前、これと同じことが、四人の漁師の召命の時に行なわれました。

以前と同じ経験が弟子たちには必要でした。つまりイエス様を信じ従う者は、決して飢えることがないことを再度教えておられるのです。必要は十分過ぎるほどに与えられます。もちろんイエス様を第一とする者たちにはです。それゆえイエス様を信頼し信じる者は、思い煩う必要はないのです。イエス様を信じる者はあわてる必要もありません。このお方が共におられるからです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は5月26日(日)となります。また次回「聖書の学びと祈り会」は5月22日(水)午後6時15分からです。

